れんげそう

令和６年10月31日
福生第五小学校
学校通信第567号

心を育てる

校長　泉田　巧人

10 月19日（土）に道徳授業地区公開講座を開催いたしました。意見交換会に多くの御参加いただくとともに、道徳科の授業を参観していただきましてありがとうございました。

さて、皆さんは道徳と聞いて何を思いますか。「人の生き方、在り方」「人として必要なもの」「人と人とのつながり」「ルール・マナーを守る」「堅苦しい」「難しい」等々、人それぞれ考えること感じることが違うと思います。それも当然で、誰一人として同じ人間はいないからです。その違う人々が、同じ社会で円滑にコミュニケーションを取り、一緒に暮らしていくため、個々が身に付けることが必要な力として道徳があると私は思います。

道徳科は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う「特別の教科」です。人間としての生き方について考え方を深める学習を通して、道徳性を構成する、道徳的判断力「それぞれの場面において善悪を判断する能力」、道徳的心情「善を行うことを喜び、悪を憎む感情」、道徳的実践意欲と態度「よりよく生きることを実現しようとする意志の働き」を育てていきます。

本校では、教育活動全体を通して道徳性を育み、「やさしい学校づくり」を推進し、よりよく生きようとする心を育てていきます。それには、基盤となる家庭の協力が不可欠です。家庭・学校・地域が一体となった道徳教育が進み、子どもたちの優しく豊かな心が育つことを切に願います。

そこで、一つの詩を紹介します。

～ 子は親の鏡 ～

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子供を馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは、「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
広い心で接すれば、切れる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かちあうことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子供に公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

親鹿の背中を見る子鹿
（日光移動教室にて）

＜魔法の言葉 ドロシー・ロー・ノルト著＞